



アメコミュ：「間」の扱い方について

アメリカ人はおしゃべりでフレンドリーなどといった印象をよく耳にすることがあります。日本のメディアなどで映し出される、アメリカ人のキャラクターがこれらの個性を持っていることは少なくありません。逆に考えてみたら、一人でなければ静かなアメリカ人は珍しいと言えるかもしれません。アメリカ人もそれぞれではありますが、一般的に「沈黙」は好まないため、よくおしゃべりする要因の一つと言えるでしょう。

日常会話で「間」があくと、数秒が経っただけで違和感を感じるアメリカ人は多くいると思います。その間をなるべく早く言葉で埋めなければいけないという考え方もありますが、根本的に沈黙から何も察することができないので、間は避けるべきだと考えられています。アメリカ人は日本でいう「空気を読む」ことはしないため、何も察することができない沈黙は恥や怒りなどの否定的な意味合いで考えられています。

また、質問した後に間があくと、聞き手が質問の答えに困っていると思われる。アメリカ人は数秒の沈黙だけで、別の質問をするか質問の言い換えをするかのどちらかになりますが、実は相手がただ話せる「間」を待っているとしたら余計に会話が進まなくなります。その反面、アメリカ人は沈黙した状態で相手の話を聞くため、あいづちを求める日本人からするとアメリカ人は聞いていないと間違われます。

Silent Treatment

I often hear that Americans are talkative, friendly, and even noisy. In fact, most American characters that appear in Japanese media show these kinds of traits, so in contrast, one might say that it is rare to find a quiet American. Although there are quiet Americans, generally Americans find silence in conversation rather discomfoting which could be one of the reasons why so many of us try to talk as much as possible to avoid any awkward silence.

In a normal conversation, whenever awkward silence appears, most Americans will start to feel discomfort after only a couple seconds. Getting rid of that silence with any kind of talk is something that we begin to think, and since we cannot tell what the other person is thinking from silence, we realize that silence is something to avoid as much as possible. Unlike Japan, where reading the atmosphere is a norm, Americans generally cannot tell what other people are thinking, so we tend to attribute silence with negative connotations like anger or embarrassment.

Additionally, if silence appears after a question, we might think that the other person does not know the answer. After a couple seconds, Americans might ask another question or try to rephrase the previous one, even though the other person could simply be waiting for silence as a cue to begin talking. On the other hand, Americans will often listen to others silently, which could confuse any Japanese who are looking for audio cues that display active listening.

てだっ子 STUDIO スタジオ

おもしろ こはる
大城 心春ちゃん(2か月) 安波茶在

おやふそ しょうひ
親富祖 丞飛ちゃん(5か月) 仲間在

こくば どうや
國場 桐矢ちゃん(3か月) 沢岬在

「てだっ子 STUDIO」写真募集

●日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。
※被写体の子どもの氏名(ふりがな)・年齢(0か月、1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)一言コメントの記入を忘れずに！

〒901-2501 浦添市安波茶 1-1-1
浦添市役所 国際交流課
☎(876) 1258
E-mail:kouhou@city.urasoe.lg.jp

私は好きな言葉を問われると「百花繚乱(ひゃっかりょうらん)」と答えています。広辞苑によれば「多くの花が咲き乱れるさま」と書かれています。この言葉から連想する私なりの風景は、同じ種類の同じ色の花が統一されて百本(たくさん)咲いている風景ではありません。色も形も大きさもそれぞれに異なる百種類(たくさん)のさまざまな花がバラバラに咲き乱れている風景なのです。つまり、百花繚乱の美しさとは、全ての花がそれぞれの個性を発揮して咲き誇り、それでもいいや、それだからこそ、全体として調和のとれた壮大な美しさがあるのです。つまり、百花繚乱の美とは多様性の美なのだと感じています。

私が目指す浦添市の街づくりはその意味では「百花繚乱の街づくり」とも呼ぶ事ができます。そして、百花繚乱の街づくりを進めていくためには、私をはじめ市民一人ひとりが多様性を尊重し、寛容であることが大切です。しかしながら、世界の動きはむしろ多様性を否定し、寛容さを失いつけているようにも見えます。例えば、トランプ大統領の米国第一主義や、英国のEU離脱問題、香港の民主化デモなど、昨年は多様性と寛容さとはまるで逆の一年になってしまいました。こんな



▲中央公民館前の花壇

時代だからこそ、多様性と寛容さを獲得するため私たちには今、勇気と優しさそして、想像力が求められています。新元号「令和」の意味は美しい調和だそう。また今年の世界中から人々が集まる平和の祭典オリンピック・パラリンピックが東京で行われる年でもあります。そんな令和2年の今年に相応しい「多様性」と「寛容さ」を基本にした百花繚乱の浦添市にしていましよう。大きくて目立つ花も、小さくて可憐な花も、真っ赤で派手な花でも、白い控えめな花でも、それぞれが持つ素敵な美しさを花開かせ、お互いに喜び合うことのできる浦添市にしていましよう。

今年も皆様にとってステキな一年となります事を心より願っております。

ハイサイ
こちら市長室！



浦添市長
松本 哲治



簡単！健康！サッと作れる！

サッとごはん

子どもたちにも大人気!!

麻婆豆腐♪

28品目



レシピ提供：保育課 管理栄養士 池原 千夏

材料(4人分)

・豆腐……………1/4丁弱
・玉ねぎ……………1/2個
・長ねぎ……………1/10本
・白菜……………1枚弱
・人参……………1/2本
・ごま油……………小さじ1
・おろししょうが …… 小さじ1/2
・おろしにんにく …… 小さじ1/2
・豚ひき肉……………120g
・三温糖……………小さじ1.5
・しょうゆ……………小さじ1
・赤みそ……………大さじ1/2
・水……………120ml
・片栗粉……………小さじ1.5

栄養成分表示 (1人あたり)
エネルギー 160kcal/たんぱく質 10.4g/脂質 9.2g/食塩相当量 0.9g

作り方

- ①豆腐は角切りにしてゆで、水気をきる。
- ②玉ねぎ、長ねぎ、白菜、人参をみじん切りにする。
- ③熱した鍋にごま油を敷いて熱し、しょうがとにんにくで豚ひき肉を軽く炒め、②を加える。
- ④野菜がしんなりしてきたら、水と調味料を加えて煮る。
- ⑤さらに①の豆腐を加えて一煮立ちさせる。
- ⑥最後に水溶き片栗粉でとろみをつける。

うめ～しポイント

保育所では旬の野菜を活用して給食提供しています。色とりどりに仕上げると、子どもたちも喜んで食べてくれますよ。保育所では麻婆豆腐丼として、ごはんに盛り付けていただくこともあります♪

問い合わせ：健康づくり課 (内線☎3660)